

# 町史編さん室だより

令和9年度の安平町史発刊にあたり、町史編さん作業の進捗状況などをお知らせします。

問合せ 総務課町史編さん室 ☎ 2511

安平町は、本年3月で誕生から20年の節目を迎え、これまでに震災やコロナ禍といった数々の試練に直面しながらも、新たなまちづくりを着実に進めています。

今回は、その歩みを刻む「町史」発刊の作業内容やこれまでの進捗状況などをご紹介します。

## 町史編さん作業

合併前の旧早来町は昭和48年と平成10年、旧追分町は昭和61年にそれぞれ町史を発行しています。現在制作中の町史では、その後の合併を迎えるまでの両町の歩みなどを振り返り、歴史の空白をつくることなく後世へと確実に継承できるよう、編さん作業を進めています。

## 町史編さんのこれまで

- ・令和4年度「町史発刊の町史編さん基本方針」を策定。
- ・令和5年度「町史編さん事業」開始。専門的なノウハウを持つ業者と委託契約を結び、資料収集、執筆業務を計画的に進める。

単に業者へ資料を提供するだけでは、歴史や様子を正確に記録、表現することは難しいため、役場総務課内に「町史編さん室」として事務局を設け、庁内に部会を設置。

さらに町民から委員を選出した「町史編さん委員会」を組織し、分野別の専門部会（行財政、産業経済、教育文化、健康福祉）を立ち上げました。

**令和8年4月1日現在の町史編さん委員数：16名（最大20名）**

町史編さん室（事務局）では、資料提供の調整や原稿案の確認、専門部会などでの意見の精査を行い、町史編さん委員会の審議を経て原稿を完成させる作業を繰り返しています。



## まちの記憶を未来へつなぐ

安平町はもともと「安平村」という共通の起源はありますが、一度は分村してそれぞれの町として歩み、再び合併したという歴史的背景があります。

そのため、合併に至るまでの過程においては、両町の資料保存方法や保管場所の変遷などに違いがあり、現存する資料の量にも違いが生じています。

また、それぞれの地域が育んできた独自の文化や産業の足跡を残すような歴史資料としての保存基準が十分に確立されていませんでした。

しかし、町の歴史は今この瞬間も日々刻まれています。だからこそ、地域の記憶をしっかりと次世代へ引き継ぐ仕組みを確立していくことが、今回の町史発刊に課された重要な役割となっています。

## 町史の構成など

どなたにでも手に取りやすく、親しみやすいよう、次の仕様で制作を進めています。

**【名称】** 安平町史

**【サイズなど】** A5判、縦書き（約1,000ページ）

**【紙面の特徴】** 本文はモノクロ、口絵などはカラーとし、写真や図版を多く掲載。

書籍版に加え、電子書籍（CD-ROM版）を制作予定。



町民の皆様が購入しやすい価格設定で頒布予定です。  
※教育現場や図書室などにも配置予定です。